

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 2021年度

法人名	NPO 法人ワーカーズ コープかがやき	代表者	新井 厚美	法人・ 事業所 の特徴	一人ぼっちにしない、寝たきりにならないしないを理念に、利用者一人一人に寄り 添い、「通い」「訪問」「泊まり」を柔軟に組み合わせることにより、住み慣れた地域 でその人らしい暮らしが続けられるように支援いたします。
事業所名	四季のベンチ	管理者	松崎 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	10人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	利用者の状態に合わせて、利用 を検討していく上で、ケアマネ だけでなく、職員の考えを取り 入れていく。朝夕のミーティン グで常に話をして、利用者にと って最善とは何かを考えてい く。体調に合わせた利用だけで なく、家族の心のケアも含めた 支援をしていく。	「常勤・非常勤の職員がほぼ全員 参加しているから、自己評価の状 況にバラツキが見られたのでは ないか、自己評価には常勤スタッ フと記載されている」という意見 を頂きました。利用者様は常勤非 常勤の区別はできないので職員 全員が統一したケアができるこ とが必要です。「あまりできてい ない」「ほとんどできていない」と いう自己評価もありましたが、職 員全員が「なんとかできている」 という評価になるようにしてい く努力が必要である。	コロナのために運営推進会議も 中止になることがおおく、実情 が把握しにくい。	支援内容を精査し、本人の自立 を意識して支援計画を見直し ていく。事業所が支援すること で過度な依存につながったり、 できていたことができなくな るということがないようにす る。
B. 事業所の しつらえ・環境	コロナ感染予防の徹底。換気を する。利用者さんに負担の無い 方法で感染予防を続けていく。	感染予防はしっかりしている が、今後は、コロナとの共存 も考えていかなければならな い。予防にも限界はある。		去年に引き続き、コロナ感染 予防の徹底。換気をする。利 用者さんに負担の無い方法で 感染予防を続けていく。 外出が難しい時もしつらえを 工夫し季節を感じられるよう にする。

C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍での地域との関り方を模索していく。今までボランティア参加の充実があげられていたが、ボランティアの受け入れの制限がある中での地域の活動を考えていく。	コロナのために地域の活動に制限があり、参加はできなかった。小さなボランティアを始めるためにチラシを配ったが全く反応がなかった。	・コロナのために人とかかわることが少なくなっている ・ボランティア受け入れも制限をした。	地域ケア会議などで地域の人にも認知症ケアに参加してもらい、地域で認知症と関わっていく働きかけをする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の外出が難しくなっているため、個別対応で買物支援や散歩支援を実施していく。	買い物支援はできたが、散歩支援はできなかった。	・地域と遮断されていないことが大切。 ・小学生との交流や、中学生の福祉体験学習の場に利用してもらっていたが、コロナのためなくなってしまい、さみしい。 ・台湾の学生が定期的に見学や交流をしていたが、なくなってしまった。	地域で最期まで生活できる支援をするために医療との連携をしっかりと行う。コロナのために中止になっている地域の行事が再開されるように地域に協力していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の開催が難しいときには、手紙や電話で意見を聞き、運営推進会議が定期に開かれるまで情報を提供したり、地域の問題を話し合ったりする。	地域の方の困りごとについては、民生委員の方の意見がとても参考になった。		民生委員さんから事例を提示してもらい、地域の事例検討を来年度には行いたい
F. 事業所の防災・災害対策	水害対策については、地域の問題として一緒に考えていく必要がある。 地域全体の問題とし、地域の訓練等に参加し、イニシアティブをとる。	運営推進会議のテーマとして常に取り上げている。水害についての地域での問題を行政につなげていっている。	水害については、台風19号被害の時から活発に話し合いが行われている。下越地区は、避難場所がないことが課題となっている。	毎年、水害については避難場所の確認をする。 災害があってもできるだけ事業を継続できるようにBCP（事業継続計画）をたてる。 →高齢協として各事業所でBCPの担当を決め計画を立てる準備をしています。